

March 12, 2020

**【前日の為替概況】ドル円、反落 コロナウイルス対応策の実現時期や効果に不透明感**

11日のニューヨーク外国為替市場でドル円は反落。終値は104.54円と前営業日NY終値(105.64円)と比べて1円10銭程度のドル安水準だった。米政権は10日に新型コロナウイルス対応の経済対策を議会に要請したものの、市場では「実現時期や効果には不透明感がある」との見方が多く、米国株が大幅に下落。ドル円にも売りが出た。世界保健機関(WHO)が新型コロナについて「パンデミック(世界的流行)」と表明したことも投資家心理の悪化につながり、4時過ぎに一時104.23円付近まで値を下げた。なお、ダウ平均は一時1689ドル下落したほか、ナイト・セッションの日経平均先物は大証終値比440円安の1万8930円まで売られる場面があった。ただ、アジア時間に付けた日通し安値104.10円を下抜けることは出来なかった。ユーロやポンドに対してドル高が進んだ影響を受けたほか、米10年債利回りが0.88%台まで上昇したことが相場の下支え要因となった。

ユーロドルは小幅ながら続落。終値は1.1270ドルと前営業日NY終値(1.1281ドル)と比べて0.0011ドル程度のユーロ安水準だった。明日の欧州中央銀行(ECB)定例理事会を前に利下げ観測が強まると、全般ユーロ売りが優勢となった。前日の安値1.1275ドルを下抜けると一時1.1258ドルまで下げ足を速めた。なお、イングランド銀行(BOE、英中銀)による緊急利下げを受けてECBも追従するとの観測が広がり、短期金融市場ではECBによる0.10%の利下げを完全に織り込んだ。

ユーロ円は反落。終値は117.79円と前営業日NY終値(119.19円)と比べて1円40銭程度のユーロ安水準。米国株や日経平均先物の下落を受けて円買い・ユーロ売りが優勢となった。ユーロドルの下落につれた売りも出て一時117.55円と日通し安値を付けた。

ユーロ円以外のクロス円も軟調だった。米国株が大幅に反落したことでリスク・オフの動きが広がると円買い・外貨売りが優勢となった。ポンド円は一時133.80円、豪ドル円は67.63円、NZドル円は65.34円、カナダドル円は75.66円、トルコリラ円は16.79円、メキシコペソ円は4.85円まで値を下げた。

南アフリカランド円は1-3月期南アフリカ経済研究所(BER)企業信頼感指数が1999年以来約21年ぶりの水準まで悪化したことも嫌気されて一時6.40円まで下落した。

**【本日の東京為替見通し】方向感のない動き、トランプ米大統領の国民へ向けた演説に注目**

本日の東京市場のドル円も方向感のない動きになりそうだ。米国株の大幅下落というドル売り材料があるものの、米金利は上昇している。今までのような株売り・債券買いという単純な動きにはならず、市場は流動性が悪化している中で方向感のない動きが本日も続きそうだ。

その中で本日注目されるのが、日本時間の10時頃に予定されているトランプ米大統領による国民に向けての演説となる。新型コロナウイルスについてのものになるだろうが、内容により株式、債券、株式市場が大きくスイングする可能性があるので警戒したい。

ドル売り材料としては、CME225先物は大阪取引所比で下落し19165円で引けているように、本日の本邦株式市場の上値の重さはリスクオフ要因でドル円の売り材料となる。日銀による上場投資信託(ETF)の年間購入目標額の年6兆円を上回る購入も辞さないとされていることで、株式市場の下落局面ではETF買いがある程度支える可能性もある。しかしながら、市場では日銀の含み損を警戒する声も高まっていることで、一時的な買い支えの効果が薄れてくると逆に債務超過による懸念で日本売り(円売り)の材料に転じることには警戒したい。

また、トランプ政権が計画している、給与税減税に対して民主党だけでなく政権与党・共和党の一部からも新型コロナウイルスの経済対策として効果的な減税策ではないとの声も出ていることや、財政を不安視する声も高まっていることで、経済政策の行き詰まりもドル売り要因となるだろう。

一方のドル買い材料としては、欧州通貨に対してドル買いが進んでいることが、対円でも一定のドルを支える要因になる。本日は欧州中央銀行(ECB)定例理事会が予定され、すでに0.10%の利下げを織り込んでいるものの、欧州各国の金利低下は欧州通貨の上値をある程度圧迫することはドル買いになるだろう。

ドル円以外の通貨も引き続き乱高下が予想される。特に本日は上記のECB理事会が行われることでユーロが神経質な動きになりそうだ。また、昨日イングランド銀行が緊急利下げを実施した英国は、保健・社会福祉政務次官が新型コロナウイルスに感染したこともあり、議会運営やブレグジット交渉などにも影響を今後及ぼす可能性もあり、引き続きポンドは乱高下しそうだ。

**【本日の重要指標】** ※時刻表示は日本時間

## &lt;国内&gt;

- 08:50 ◇ 2月企業物価指数（予想：前月比▲0.3%／前年比 1.0%）
- 08:50 ◇ 1-3 月期法人企業景気予測調査
- 08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）

## &lt;海外&gt;

- 09:01 ◇ 2月英王立公認不動産鑑定士協会（RICS）住宅価格（予想：20）
- 10:00 ◎ トランプ米大統領、国民に向けて演説
- 17:30 ◎ 2月スウェーデン CPI（予想：前月比 0.6%／前年比 1.3%）  
コア指数（予想：前月比 0.4%／前年比 1.1%）
- 19:00 ◎ 1月ユーロ圏鉱工業生産（予想：前月比 1.4%／前年比▲3.1%）
- 21:00 ◎ 1月インド鉱工業生産（予想：前年同月比 0.7%）
- 21:30 ◎ 2月米卸売物価指数（PPI、予想：前月比▲0.1%／前年比 1.8%）  
◎ 食品とエネルギーを除くコア指数（予想：前月比 0.1%／前年比 1.7%）
- 21:30 ◎ 前週分の米新規失業保険申請件数／失業保険継続受給者数（予想：21.8 万件／173.3 万人）
- 21:45 ☆ 欧州中央銀行（ECB）定例理事会、終了後政策金利発表（予想：0.00%に据え置き）
- 22:30 ☆ ラガルド ECB 総裁、定例記者会見
- 13 日 02:00 ◎ 米財務省、30 年債入札

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

11日 07:05 デベル RBA(豪準備銀行)副総裁  
「第1四半期以降のコロナウイルスの影響を評価するにはあまりにも不確実」  
「財政と金融政策が困難な時期を支援するのに役立つ」  
「最近の豪ドル安は経済を刺激するのには役立つ」

11日 07:10 クドロー米国家経済会議(NEC)委員長  
「包括的な経済対策の詳細に取り組んでいる」  
「近い将来に経済対策のより具体的な内容を公表」

11日 17:31 ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁  
「欧州は新型肺炎により2008年のような危機のリスク」  
「ECBはあらゆる手段を講じる」

11日 18:06 カーニー英中銀(BOE)総裁  
「新型肺炎の経済へのショックは大きい。ただ一時的と判断」  
「利下げは予算との協調を表した」  
「英国のためにあらゆる必要な追加措置を講じる」

11日 18:23 ベイリー英中銀(BOE)次期総裁  
「必要ならばBOEは1.25%の利下げやその他措置を含めたさらなる政策余地がある」

11日 19:23 グアルティエーリ伊経済・財務相  
「新型肺炎対策として250億ユーロを支出する」

11日 20:07 メルケル独首相  
「新型肺炎のために出来ることは何でもする」

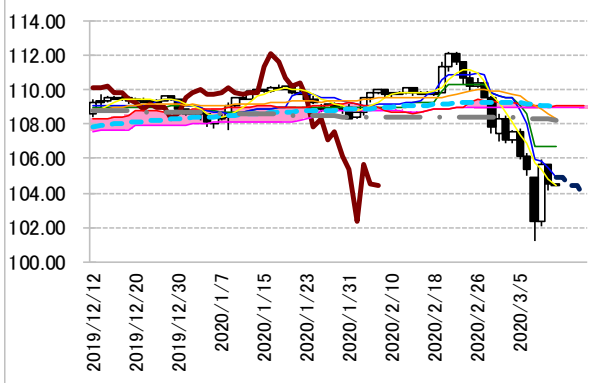
11日 21:41 スナク英財務相  
「英国の健全と経済安定を保つためにあらゆることを行う」  
「新型肺炎が主要な課題だが、それだけではない」  
「需要低下を避けることはできない」  
「新型肺炎の経済への影響は著しいが、一時的」

11日 23:32 ムニューシン米財務長官  
「新型コロナウイルスの影響は当初、国際的に過小評価されていた」  
「新型コロナの影響を受ける人や企業を支援するため経済的オプションに取り組んでいる」  
「今朝、新型コロナ巡りポンペオ国務長官と会談」  
「IMF、世銀とコロナウイルス巡り連絡を取っている」  
「納税延期により数千億ドルを経済に投入可能」  
「納税遅延で2000億ドルを超える流動性を供給する可能性」  
「いくつかの新型ウイルス対策は24時間以内に実施されるが、その他は実行まで1-2週間かかるだろう」  
「第1段階の景気対策に全てが織り込まれているわけではない」  
「第1段階について議会が2日間以内に承認してくれることを願う」  
「金融市場への介入は必要ないとみている」

12日 01:31 テドロス世界保健機関(WHO)事務局長  
「(新型コロナウイルスの感染拡大を受け)パンデミック(世界的大流行)となった」

※時間は日本時間

## 〔日足一目均衡表分析〕

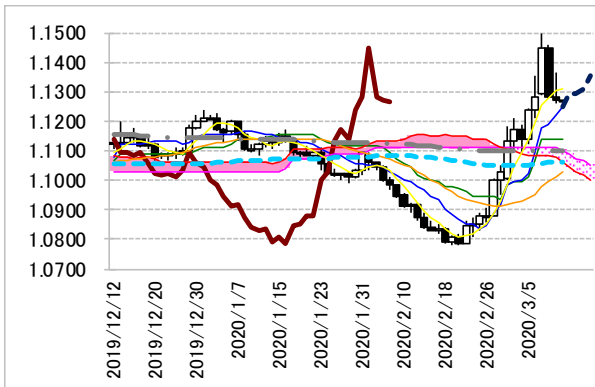


### <ドル円=5日線付近で上下しつつ落ち着きどころ探る展開>

下影陰線引け。低下中の一目均衡表・転換線付近で押し戻される展開となった。

105.44円から本日104.89円へ水準を下げた同線付近での重さが続きそう。目先のすう勢を示す5日移動平均線前後で上下しつつ、下値での落ち着きどころを探る展開を想定する。5日線は現時点で104.48円前後で推移している。

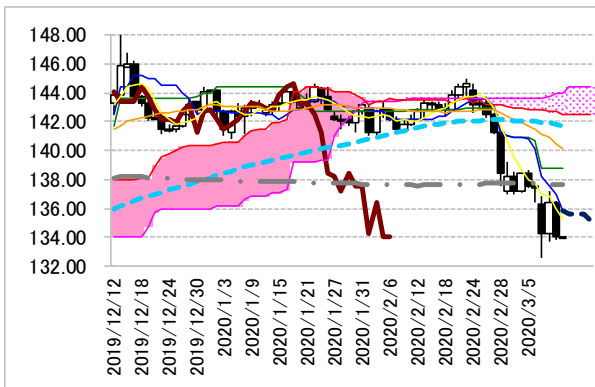
レジスタンス1	105.44(ピボット・レジスタンス1)
前日終値	104.54
サポート1	104.10(3/11安値)
サポート2	103.56(3/9-10上昇幅の半値押し)



### <ユーロドル=転換線を維持できるかが目先の焦点>

上影小陰線引け。一時1.1367ドルまで上昇したものの、結局1.13ドル台で上昇中の5日移動平均線に追随できず、1.12ドル台へ押し返されている。本日1.1249ドルに位置する一目均衡表・転換線を維持できるかが目先の焦点。上昇が続く見込みの同線とともに再び上値を試す展開を期待するが、下抜けると次は1.11ドル台の一目・基準線を試すことになりそうだ。

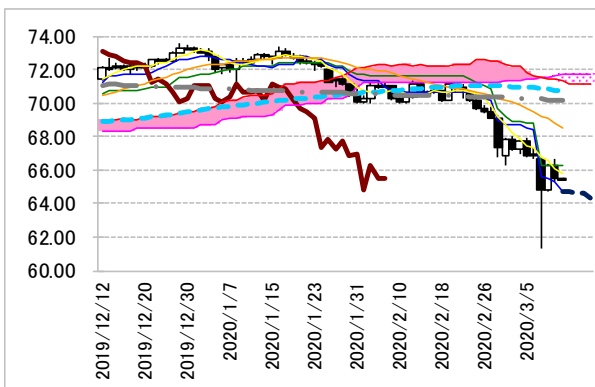
レジスタンス1	1.1338(ピボット・レジスタンス1)
前日終値	1.1270
サポート1	1.1212(3/6安値)



### <ポンド円=安値水準で足場を固める局面>

下影大陰線引け。一目均衡表・転換線付近や135円台で低下中の5日移動平均線を上回る水準で動きが重く、134円付近へ押し戻された。転換線は本日135.89円へ低下している。5日線は135.20円台で推移しており、両線が引き続き抵抗。9日につけた直近安値を割り込まない範囲で、抵抗の克服へ向けて足場を固める局面といえる。

レジスタンス1	134.86(3/11レンジ38.2%水準)
前日終値	134.03
サポート1	133.04(ピボット・サポート1)



### <NZドル円=転換線へ追随した下落懸念も下振れは回避へ>

陰線引け。一目均衡表・基準線66.32円を回復しきれず、65円台へ下押しした。64円台で低下中の一目・転換線へ追随して下値を探るリスクが懸念されるものの、10日安値64.70円付近で底堅さを示し、9日の下振れ水準61.30円を目指す展開は回避できるとみる。

レジスタンス1	66.32(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	65.53
サポート1	65.03(ピボット・サポート1)

